

先生各位

検体採取方法のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、このたび百日咳菌培養につきまして、推奨いたします検体採取方法をご案内させていただきます。今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) は気道上皮細胞、主として線毛細胞に付着して百日咳毒素を産生し、その結果激しい咳を生じるとされています。鼻咽頭の上皮はこれらの細胞により構成されており、百日咳菌の検出には最も適した部位であります。従いまして百日咳菌培養法のご依頼につきましては以下の方法によるサンプリングが推奨されます。

鼻腔洗浄、鼻腔吸引（推奨法）

(ア) 採取方法：適当な鼻腔洗浄キット（およそ 3～5mL の生理食塩水を使用）あるいは吸引キットにより検体を採取。採取した検体を搬送容器に入れ冷蔵保存する。

(イ) 推奨材料：鼻腔洗浄液、鼻腔吸引液

(ウ) 搬送容器：U2 容器あるいは T6 容器

現行の T1 容器でのご依頼は引き続き受託致しますが、検出感度の観点から T1 容器よりも鼻腔洗浄や鼻腔吸引による採取材料でのご提出を推奨致します。

【 推 奨 理 由 】

- 鼻腔洗浄や鼻腔吸引は、鼻咽頭スワブによる検出方法より検出感度が上がります。
- レーヨンスワブやコットンスワブによる採取はスワブ中に含まれる脂肪酸により発育が阻害されますので使用は避けてください。
- 喀痰や咽頭粘液による採取は、唾液中に存在する雑菌の混入により検査が困難になる場合がありますので避けてください。

【 注 意 点 】

- カタル期（発病初期の 1～2 週間）を過ぎますと検出率は極端に低下します。特に、年長児や成人ではカタル期を過ぎてから受診されるケースが多く、このような場合は血清検査法による診断の併用をお薦めいたします。

参考文献： *Bordetella* cultures (3.11.6), Clinical Microbiology Procedures Handbook, 2nd edition, American Society for Microbiology, Washington D.C., 2004.